

1. スペイン語入力のための準備

現在一般に使われているパソコンのシステム (Windows XP, Mac OSX) ではスペイン語を入力する手だてが用意されています。ただし、買って来たままの状態では普通、それが使えるようにはなっていません。従って、まずは入力のための設定をすることになります。

1.1. Mac OSX

「システム環境設定」を起動し、「言語環境」を選び、さらに「入力メニュー」を選択します。そこにあげられている色々な言語の中からスペイン語を選んでチェックを入れるだけで作業は終わりです。



図 1: スペイン語 (ISO) にチェックが入った状態

あとはキーボード (入力システム) の切り替えでスペイン語を選ぶことができるようになります。



図 2: スペイン語がメニューに入っている

1.2. Windows XP

Windows XP では「コントロールパネル」の「日付、時刻、地域と言語のオプション」に、「他の言語を追加する」という項目があります。

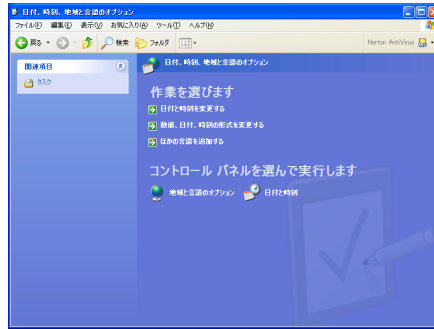


図 3: 日付、時刻、地域と言語のオプション

それを選ぶと、「テキスト サービスと入力言語」というウィンドウが開き、「インストールされているサービス」で入力できる言語の一覧をみる事が出来ます。

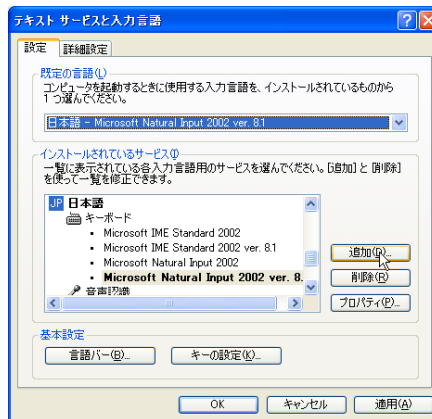


図 4: テキスト サービスと入力言語

「追加」を選ぶと別のウィンドウが開くので、そこでスペイン語を選びます。これで、入力システムにスペイン語を選ぶことが出来るようになりました。

2. 入力の実際

では実際にスペイン語を入力してみましょう。システムが用意している入力方法に対応しているソフトなら何でも良いのですが、とりあえず Word を立ち上げて、そこで試してみます。入力が可能な状態で、入力方法をスペイン語に切り替えます¹。

¹メニューからマウスで選んでも良いが、キーボードから切り替えた方が速い。Windows なら「Alt」を押しながら「Shift」を押す。Mac なら「コマンド」と「Option」を押しながらスペース

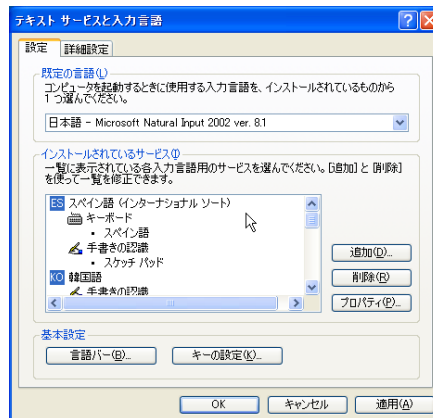


図 5: スペイン語 (インターナショナルソート) が追加された

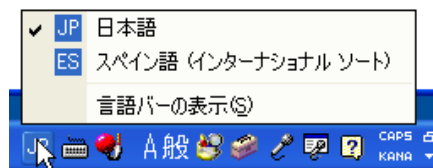


図 6: スペイン語がメニューに入っている

この状態で、次のようなキー・ストロークによってスペイン語に必要な文字を入力することができます。アクセント付きの母音はアクセントにあたるキーをまず打った後、母音を入れるという2ストローク方式で入力します。「1ストローク目」「2ストローク目」というのは、キーボード上に書いてある文字、日本語・英語モードで入力されるはずの文字を指します。

1 ストローク目	2 ストローク目	文字
^		i
~ (^ shift)		í
;		ñ
+ (; shift)		Ñ
:	母音	á, é, etc.
* (: shift)	母音	ü, Ü, etc.

ここから想像される通り、キーボードがスペイン語になっていると、いくつかの文字が日本語・英語のときと異なった位置にあります。「;」を入れようとして(右手の小指で)キーを打っても「ñ」が入力されるわけですから、ス

バーを押す。どちらの場合もスペイン語になるまで何度か押す必要があるかもしれない。日本語に戻すには、同じ手順を繰り返せば良い。

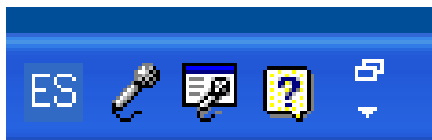


図 7: スペイン語入力状態

スペイン語状態で「;」を入れるためには別のキーを押す必要がありますね。幸いなことにアルファベットと数字は日本語・英語のときと変わりませんので、キー配列を表示してくれるユーティリティを立ち上げておいて²、必要なときに見るようにすれば、それほど時間をかけずに覚えることができるでしょう。

時にはキーボードにない文字が欲しくなることがあります。その代表的なものが«»です³。その時はメニューの「挿入」から「記号と特殊文字」を選んで入力します⁴。さらに「ショートカット キー」を指定することで、Word 中ではいちいちメニューを通さずキーボードから入力することができるようになります。

3.

3.1.

では、実際にスペイン語を入力してみましょう。次の文章をそのまま入力してください。と言っても、段落途中の改行やそれに伴うハイフネーションは無視してください。また、キーボードは必ず「スペイン語」の状態にしておいてください⁵。

—No entiendo. ¿No dices que te gusta ese trabajo? —la interrumpía su marido.

—Sí.

—Entonces, qué es lo que te parece tan triste?

—Pensar que unos enfermos desconocidos me quieren más que mi propia madre, que no me necesita para nada.

—Es que ella no está enferma —replicaba el señor Allen—. Además, ¿no te ha dicho muchas veces que le gusta vivir sola?

—Claro que me lo ha dicho.

²Windows の場合は「スクリーン キーボード」(「アクセサリ」の「ユーザー補助」のところにある)、OSX の場合は「キーボードビューア」(先ほどの言語環境設定のところで指定する。以前のバージョンでは「アプリケーション」の「ユーティリティ」にあった)がある。

³全角の《》とは異なるので注意。Mac のスペイン語キーボードでは入力できる。ただし私の環境では、なぜか Word 上で« が入らない(» は大丈夫)。よくあるバグの一種だろうか。

⁴Mac では入力メニューの「文字パレット」の方が便利。ただしショートカットの指定はできない。

⁵スペル・チェッカーがインストールされている場合、Word はキーボードの言語に合わせてスペル・チェックを行なってくれます。

—Pues entonces, déjala en paz.

—Me da miedo que le roben o le pase algo. Le puede dar de repente un ataque al corazón, dejarse abierto el gas por al noche, caerse en el pasillo... —decía la señora Allen, que siempre estaba barruntando catástrofes.

—¡Qué le va a pasar! Ya verás cómo no le pasa nada —decía él—. Ésa nos enterrará a todos. ¡Menuda lagarta!

El señor Allen siempre llamaba «ésa» a su suegra. La despreciaba porque había sido cantante de *music-hall*, y ella a él porque era fontanero.

Carmen Martín Gaité, *Capercucita en Manhattan*, Siruela, 1990, pp. 18–19.

3.2.

さて、皆さんご存知のように⁶、「段落のはじめはひとマス空け」ます (柳原 2005: 7)。欧文の場合も少し字下げをして始めるわけですが、皆さんは、今入力した文章の段落始めを、どのように字下げし (あるいは「ひとマス」空け) ましたか。

「スペース・キー」というのが大方の答えでしょう。最初はそうしたけれど、いつのまにか Word が勝手に字下げをしてくれた、という人もいられるかもしれませんが、でも、自分でスペース・キーを押したり、Word にやってもらったりというのは初心者のごく初歩のことです⁷。

字下げは「スタイル」を使って実現します。メニューの「書式」から「スタイル」を選ぶと、段落のスタイル (フォーマット) を設定する画面になります。「すべてのスタイル」を見てみると、その中に「本文字下げ」というものがあるはず。それを選択すれば、自動的に段落の最初が空いてくれます。

これって、でも、スペース・キーを押す方が簡単じゃん、と初心者は思うものです。しかし、「スタイル」を使う癖をつけておくと、あとでいろいろ便利なことが出てきます。たとえば、字下げの幅をどうするか。和文の場合は「ひとマス」で固定されていますが、欧文ではレイアウトの都合で変更することがあります。段落の字下げを、たとえばスペース 1 個分から 1.8 個分に変更したいとき、スペース・キーで字下げしていると、まず 0.8 個のスペースを入力することが不可能ですし、仮にそれが出来たとしても、全ての段落についていちいち変更するのは面倒です。その作業が終わったあと、やっば 1.7 個分にした方がキレイだ、などということも起こりえますよね。で、すべての段落ひとつひとつからスペース 0.1 個を削除することになったりします。

「スタイル」で字下げを設定してある場合は、そのスタイルの設定を変更すれば、それがすべての段落に反映されます⁸。つまり、1箇所の変更で、すべてがすむわけです。

⁶あるいはご存知でないように

⁷その意味では生涯初心者を貫くという人も多いのですが。

⁸ただし「自動的に更新する」をオンしておく必要があります。

スタイルを使うメリットは、それだけに留まりません。レポートや論文を書くときに便利な見出しの自動化もしてくれますし、例文の通し番号なども、いちいち手に入れるのではなく、スタイルで処理すれば、作業はずっと効率的になるでしょう。最初は慣れるのに時間がかかるかもしれませんが、覚えておいて損はない機能ですから、是非、使ってみてください。